

重要文化財 称念寺本堂
保存修理現場見学会

平成 25 年 7 月

主催 宗教法人 称念寺

奈良県教育委員会

立ち入り
禁止

●寺院および本堂の歴史

称念寺は橿原市今井町に所在する浄土真宗本願寺派の寺院です。天文年間（1532-55）に道場が建てられ、その後、御坊としての整備がなされたと考えられており、寺内町今井成立の中核を担ってきました。

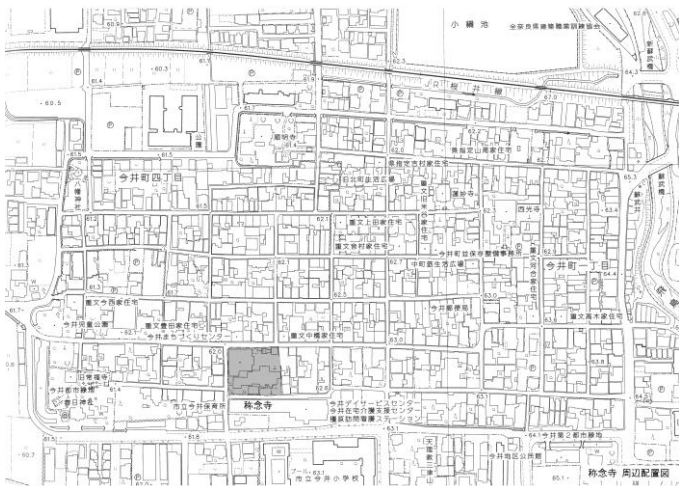
寺地は今井町の南西部に位置し、本堂は境内の北西隅に東面しています。本堂は桁行約 20m、梁間約 21m、いりもやづくり入母屋造、本瓦葺の建物で、建立時期については明らかではありませんが、大型の浄土真宗本堂としては随所に古式な手法がみられ、細部のデザインなども近世のものにしては古

風なことから、江戸時代前期の建立と考えられています。

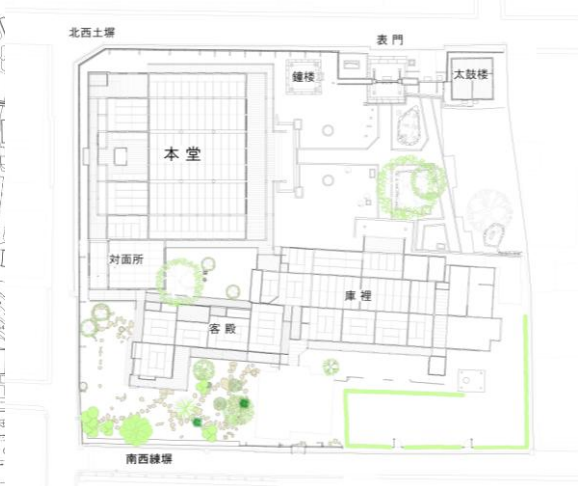
称念寺文書や本堂に残る墨書・銘文により、天保年間（1830-43）に大きな修理があり、屋根葺替のほか、堂内の修理も行われたようです。

その後、明治 10 年（1877）明治天皇の今井行幸ぎょうこうに際し、周辺建物を含めた整備が図られたようです。

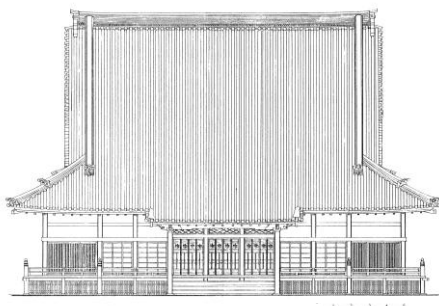
時を経て劣化が進み、平成 10 年（1998）の台風の際には、本堂背面の屋根を鉄板仮葺として、南面に補強材を挿入しましたが、それ以降も屋根瓦の道路への落下が頻発したため、北面・西面の軒先や屋根面を鉄板で覆い現在に至っています。



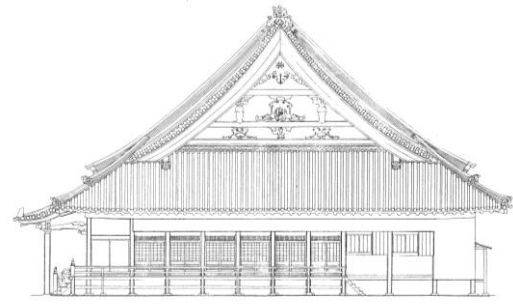
今井町地図



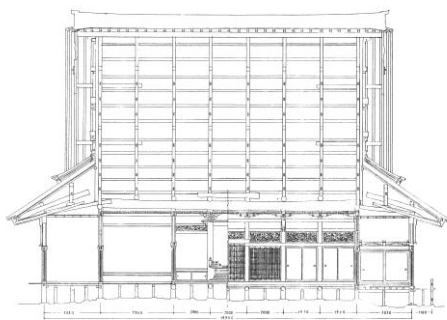
称念寺境内図



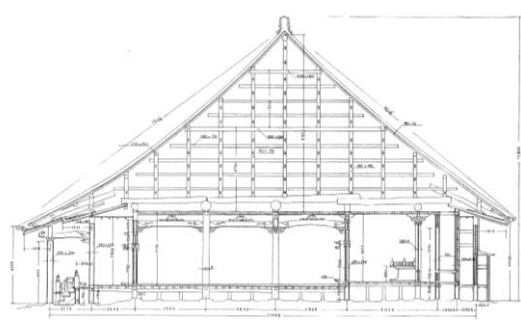
正面図



側面図



桁行断面図



梁行断面図

●保存修理工事の概要

今回の保存修理工事は、称念寺からの委託を受け、奈良県教育委員会文化財保存事務所が行っています。

現在の状況は、各部が変形・弛緩して柱が全体に南に向かって大きく傾斜し、屋根の骨組みを構成している部材のうち、小屋梁こやばりの甚大な破損により、骨組みの一部が崩壊して屋根面が大きくうねっています。また、軒先は大きく垂下して通りが乱れ、瓦が脱落寸前になっています。

今回は、これらの破損状況を踏ま

え、軸部じくぶを残してすべて解体し、礎石そせきの不陸調整及び柱の傾斜矯正を行った後、組み立て復旧するという修理方針としています。

事業は、平成 22 年 4 月に着手し、平成 31 年 12 月に竣工の予定で、総事業費は約 16 億円となる見込みです。

本堂を覆う素屋根すやねは高さ約 20m、基礎は鉄筋コンクリート造、構造は鉄骨造です。素屋根工事は平成 24 年 8 月に着工し、平成 25 年 6 月に竣工しました。



<修理前写真> 左；正側面全景 右；内部全景



<破損状況> 左；小屋梁折損状況 右；突き破られた天井



彩色剥落止め作業（内陣）



年号（左；擬宝珠銘 右；敷居銘）



本堂・鐘楼・土塀



鐘楼解体中



対面所・客殿



客殿解体中



対面所



対面所解体中



南塀



塀解体中



<客殿・鐘楼・対面所・周辺土塀解体状況>

●これまでの経過

平成 22 年度に始まった今回の保存修理は、本堂の覆屋建設のために、平成 23 年度までの 2 カ年度にわたって周辺建物を解体撤去してきましたが、それらの建物も、また元の通りに復旧する予定で、通常の文化財建造物の保存修理と同様、丁寧な解体作業および調査を行ってきました。

調査の結果、対面所は元禄 8 年

(1695) の建立からほとんど改変されていないこと、客殿の当初壁が天保年間以降の施工であること、土塀の修理が元文元年 (1736) に行われたこと等が判明しています。

また、本堂の本格的な解体工事に先立っては、彩色・壁紙の剥落止めおよび養生処置と解体格納を行っています。

奈良県教育委員会事務局文化財保存事務所

〒630-8502 奈良市登大路町 30 tel 0742-27-9865 fax 0742-27-5386